

NO.	テーマ	参加者の発言	市長の発言	教育長の発言	補足など	関係課
1	教育を考える会の開催について	教育は今変わるべき時だと思います。一緒に教育を考える会をいくおりクラブで開催してもいいのであれば、主催してやっていきます。教育委員会もどう改革をしていくつもりなのか、それに合わせて市民としても協力していけるので、一緒にやっていくということを伝えたくてきました。	持ち帰って教育委員会と考えます。先生方に気づいていただくという必要があると思うので、そのためにいろいろな打ち手があるはずなので、その中でまずやれることから、理想に向けて一歩ずつ取り組んでまいります。		令和6年度に本埜中学校の家庭教育学級で、映画鑑賞（「夢見る小学校」等）を行ったと聞いています。令和7年度に家庭教育学級や学校を核とした県内1000か所ミニ集会等で同様な取り組みができないか、校長会議や教頭会議にて紹介をしていきたいと考えています。また、いくおりくらぶ主催で実施するということでしたら、教育員委員会として可能な範囲で協力をしていきたいと考えています。	教育総務課
2	教育を考える会の開催について	例えば、「夢見る小学校」や「夢見る校長先生」という映画があります。そういう映画と一緒に見て、先生、保護者、子どもと一緒に「こんな教育があったらいいね」と語り合うだけでも何かが変わるのではないかと思います。		—		
3	教育を考える会の開催について	文部科学省が日本型学校教育の構築を目指して方針を出していますが、先生たちも言われるだけでなく、一緒に考えたり議論したりすることが必要です。				
4	大規模校分離新設について	分離新設校について、新しい学校を作ると言っても、一筋縄ではいきません。思い切って特色のある学校を作るのはどうでしょうか。例えば、インクルーシブ教育に特化した学校など、何か特色を設けることで、「そういう学校ならお金をかけてもいい」という話になるかもしれません。	適正規模について考える中で、現在は分離新設を進めています。土地の問題がありますが、市民の皆さんに愛される学校になる必要があると思うので、なるべく最適な選択肢にたどり着けるように庁内でも検討チームを立ち上げ、全庁的に一丸で取り組んでいます。特に、10年に4月に一番のピークを迎えるため、それに向けて準備を進めています。	—	—	学務課
5	教育改革のビジョンについて	市長になってから「ここだ」と思った改革や、やるべきことについても教えてください。また、気になっている自治体の取り組みや、アイデアがあればお伺いしたいです。	<p>教育へのビジョンは以前から変わっていません。子どもたちそれぞれに合った様々な選択肢を提供することが最も重要だと思います。学校の中だけでなく、放課後の学童保育も必要です。特に、学校に通えない子どもたちや、不登校の子どもたちの居場所づくりが大切です。支援学校に通う子どもたちも含め、様々な状況にある子どもたち一人ひとりに寄り添うことが重要です。</p> <p>個性を伸ばし、生きる力を育むことが大切です。変化が激しい世の中では、従来のように答えが決まっているわけではありません。生きる力を育むことが大人の責任だと思います。子どもたちに武器を授け、自分で選択する力を持ってもらう武器を与えてあげることが一番大切だと思います。</p> <p>地域に根ざすことが大切だと考えます。現在は生活の利便性や快適性は高いですが、地域間でのつながりが薄れていると感じます。私も地域の大人に育ててもらった原体験があったからこそ、地元に戻ってきました。地域のつながりを感じ、地域で育むことが大切だと思います。</p> <p>スクールバスも増やしたのですが、来年度もう一便ずつ高花といにはのへ増やせないかと、教育委員会で頑張っていたいただいています。</p> <p>DX教育について、元原山小学校の先生が市に加わってください、教育のDX推進の専門官としていらっしゃいますが、来年からもう少し体制強化していこうと考えています。予算も含めて、なるべく早くどの小中学校でもその学びが受けられるような、そんな環境づくりを進めているところです。これも計画をつくっていただいています。</p> <p>教育は教育委員会の中で完結すべきものだという発想がありましたが、最近では総合教育会議が定期的に行われています。今までは原稿を読み合わせるみたいなことが多かったのですが、よりよい場にするべく、原稿なしで学校、地域の中で議論させていただいています。もし予定がある方は覗いていただければ、DXと、不登校支援の話についてご説明させていただきます。</p> <p>原山小の放課後子ども教室をやっていただいている所を使って、千葉市さんが実施されている、学童に通いながら習い事に通えるという「アフタースクール」という事業を印西市でもできたらいいなみたいなことは、今思っています。</p>	—	—	指導課 指導課 企画政策課 学務課 指導課 企画政策課 生涯学習課

NO.	テーマ	参加者の発言	市長の発言	教育長の発言	補足など	関係課
6	フリースクールについて	フリースクールも義務教育なのに、行く学校がなくて、フリースクールしかないけど、フリースクールだと学費がかかるとか。親も子どものフォローであんまり働けないけど、でも義務教育なのにお金がかかるとか。	来年からフリースクール向けの支援というのができないかと、その方針を作っています。 教育センターに元々先生だった方が来てくださっていますが、不登校支援をするときに、全体の絵がないと具体的な政策作れないので、方針をつくっていただいています。 学校の中で居場所をつくっていくとか、学校の中に居場所が何かなくなって、来れない子たちのために、例えば家にも支援をできるようなやり方をちゃんと決めていこうと思っています。 全体の市としての方針を書いてくださり、これからしっかりと不登校支援ができる土台ができたかなと。	—	—	指導課
7	教員の意識について	不登校になるまでって、例えば先生に受け入れてもらえないとか、特性がわかってもらえないとか、そういうことで苦しくなって行けなくなった子たちだと思います。 学校とか居場所づくりっていうのを、普通教室が自分の居場所になれるよくらいの改革してほしいなと思います。	おっしゃる通りだなと思います。まずは今ある学校を良くしていくというのが子どもたちにとって一番いいことだと思います。 ただ、そういう子たちのための場づくりには時間がかかると思っています。先生が変わるというのは難しい状況もあります。  子どもたちは一瞬一瞬なので、僕としては今この立場でできることをやるしかないと思うので、当然ながら学校の学びの場自体も改善していかなきゃいけないと思いますが、時間がかかるので、だったら新しい場を作っちゃおうというのは、やっぱり僕は持つべきだと思います。だからこそ選択肢が大事だと思っているので、できる中で最速でやることはやろうと思っています。	やっぱり子どもたちを理解する、児童理解、生徒理解、これは一番大事です。これはどんな子でも。そうしないと、その子に一番合った教育ってできませんから。 これだけ激しく、またスピード感があって、どんどん変わっていく世の中で、情報も溢れていて、何が本当かわからない。そんな社会に生きていくわけですね。 我々が死んだあとに残された子どもたちが生きていける力を付けることが私たちの仕事じゃないのかなと。 両輪とよく言いますが、保護者の方も入ってきていただかないといけないですよ。	指導課	
8	教員の意識について	いろんなことやってもらっても、結局不登校の子を生み出すと思います。 先生たちも「楽しいな、やった方がやりがいを感じるし、ちょっと楽になるな」って思うようなクリエイティブな改革をやってほしいです。	教育委員会や行政組織は、仕組みを変えるということがあまり得意ではないかと思いますが、仕組みを変えることによって、現場の先生方の動きが変わって行って、子どもたちにより環境を作っていくという。 来年、教育大綱という一番大事な文書と、あと教育基本法シンポジウム、2つ作りますけど、これらを総合教育会議の前に持ってこようかなと思っています。そこでみんなで議論しながら、仕組みとしてちゃんとこのまちが良くなっていくような、そんな議論をしたいなというところで。	また、それぞれの学校で、管理職がリーダーシップをとって、コスモスファイルの作成等をやらせなきゃいけないし、子どもの特性を理解する力を身につかせなければいけないと考えています。 校長と教頭と、月に1回会議をやっていますので、その場でとにかく一人ひとり、一番大事にしなきゃいけないのは人権だということを言っています。 当然、人権教育の中にいろんなことが入ってきますので、全てそこに集約されるのかなと思っています。 まずは大きな話で言うと、管理職を通じて現場を鍛えるというようなところを粘り強くやっていかなきゃいけないなと思っています。	—	
9	教員の意識について	先生が大事にしたいことも大事にしつつ、普通の学校自体が、それぞれのいろんな特性のある子の居場所になっていくことが一番合理的だと私は思います。	その大前提として、やはりトップがしっかりとビジョンを持った上でメッセージを伝え続けることが大前提だと思います。その中でそれに沿った仕組みも変えていって、これが続いていくと何が起るかとすると、文化が変わります。文化が変わると人が変わっても続いていくんです。	—	—	
10	教員の意識について	放課後学校に行って先生を捕まえて話し合っ、折り合いをつけてというように、親が自分から足を運ばなきゃいけない。 普通級だと、個別に声をかけてとお願いしていても、やっぱり忘れられてしまう。	繰り返しますが、そこまで行くには時間がかかるので、最速でできることを僕はやっぱりやっていかざるを得ない。理想的なことを分かっています。そこに向かって一歩ずつステップを追っていきます。	—	—	
11	教員の意識について	個別の問題を用意したら業務時間が増えるから、一律小学校2年生の勉強をしている知的級があるそう。行政の力で何とかなる部分は行政にお願いしたいなと思っています。	—	—	—	
12	教員の意識について	「夢見る校長先生」という映画があります。そこでは教育長、市長は校長先生を応援しますよって。校長先生がやりたいことをどうぞやってくださいってやってもらえたら、もしかしたら変わるのかもしれない。 教育委員会のトップダウンじゃなくて。	—	—	—	
13	教員の意識について	例えば、夏の暑い日でも、窓を開けるのは係の人じゃないといけない。外に出るときは赤白帽子を被らなくてはならない。など、ルールに縛られてしまっている教員が多いと感じます。 教育長、教育委員会の方で指導してほしいなと思います。	—	全てに言えると思うんです。 何のためっていうことを考えれば、赤じゃなくてもいいですよ。熱中症のリスクを少しでも抑えるためということで考えてまいりたいと思います。	—	指導課

NO.	テーマ	参加者の発言	市長の発言	教育長の発言	補足など	関係課
14	コスモスファイルについて	先生たちにお子さんの特性を理解してもらうために、毎年いろいろな説明をしていますが、コスモスファイルの引き継ぎも曖昧です。また、特性を説明しても全然理解されず、そのお子さんに適したフォローが何かを考えてもらうことが難しい状況です。		<p>特性の理解が、一番大事です。30人いれば30人違います。この子だけがとか、そういうんじゃないかと、特別に配慮が必要な子についてはどうすることが必要なのか、まずは個別の指導計画というのをこの学校も作っていただければと考えています。</p> <p>コスモスファイルというのは教育支援計画です。ただ、なかなかうまく作れていないという現状があります。これは短期的な目標を、保護者も子どもも納得した上で学校と一緒につくる。これが本来の指導計画です。それがちょっと弱い。これは本当に申し訳ないと思います。</p>	—	指導課
15	個別指導計画について	個別指導計画の作成ができていない理由はなんですか。	—	学校によって認識の違いがあったりするの、そこは是正していかないといけないと思っています。	—	指導課
16	個別指導計画について	合理的配慮を提出した人には個別指導計画を作成しなきゃいけないと思うのですが、先生はそれを知らないです。支援級の子だけが対象だといわれました。		それは良くないですね。まず年度初めに全家庭に配布します。そこで必要があると感じている保護者は学校に提出しています。そうすると、そこから親と保護者の方と面談をして、学校でここまでではできませんけれども、ちょっとこの先はという折り合いをつけていただいて計画を立てていただくというところ。ただ、今できていないところがあるっていうのを知りましたので、対応を検討してまいります。	—	指導課
17	人手不足について	介助員の勤務時間について、1日7時間にできないでしょうか。登下校にトラブルを起こすお子さんもたくさんいらっしゃると思うので、そこも途中までだけ見ていただく必要性を感じています。さらに担任の先生との打ち合わせの時間も取れます。		人が集まらないという問題があったので、ホームページに載せるようにしました。時給もここ数年で随分上がりました。しかしそれに伴い、扶養の問題とか所得税の問題とか、働き方を抑えてというのは、介助員、学習指導員の方もかなりいらっしゃるわけですから、予算をこっぴで一生懸命確保するんですけども、ここで週2日しかできません、3日しかできません。それをお2方合わせて4日行ってもったりとか、いろいろなことをやっていますけれども、ただ、本当に数はもっともってほしいです。		学務課
18	人手不足について	介助員さんがなかなか集まらないと聞いたことがあります。学校のホームページにも掲載されていますが、やはり待遇改善、そして介助員を増やしてほしいというのは早急をお願いしたいなと思っています。	—		—	
19	人手不足について	介助員が足りないということで、例えば作業療法士とか理学療法士とかを目指している学生さんを介助員として入れられないか、という提案を学校にしたのですが、その時は難しかったようで、断られてしまいました。今はそういう人たちを視野に入れていますか。	—	こちらは今考えています。理学療法とか、その辺に特化してはいいんですけども、近くに大学がありますので広げられないかというところともちょっと話を始めたところです。何とか人を確保したいと思っています。	—	
20	人手不足について	人が足りないってのも、ボランティアなら午前中だけ入れるとか思う親御さんもなくはないと思います。もうちょっと開いてくれると入りやすいかなと。		学校支援ボランティアというのもあるんです。まさにそういった午前中だけとか、週2回だけとか、そういう方も実は受け入れてやっていただけのシステムがあるんですけど、やはり知らない方も多いので、周知方法などは考えていく必要があると考えています。		

NO.	テーマ	参加者の発言	市長の発言	教育長の発言	補足など	関係課
21	人事について	通常級は任せられないから支援級の担任をさせる、家庭の事情等で休みがちになるから支援級の担任をさせる、という話があるそう。 特別支援学級は預かり保育施設ではなく、個人に合った学び方の選択肢であり、こうした人事は特別支援学級への偏見を助長するため、直ちに是正してほしい。		これは大変重要な問題ですので、担任というのとはできるだけ1年交代がないようにと。異動があるので、それはご承知でいただきたいですがけれども、毎年毎年担任変わっちゃうというのはよくないと。でも変わっちゃっているところがあります。申し訳ないんですけども。それはできるだけないようにとということで考えています。		学務課
22	人事について	一年で先生が異動とかで変わるといよりは、やはり通常級で使えないから支援級にみたいなのが全国的にあり、支援級がないがしろにされています。 目配り、気配り、心配りも必要だし、いろいろなことを想定しないといけないので、すごくスキルがいるんです。 それを任せられない、休みがちだからという理由で支援級の担任というのは、そこはやはり情報をアップデートしてほしいなどおもいます。	—		—	
23	人事について	特別支援学級の人数を最大7名まで、また、支援級1クラスあたりの学年の構成を3学年までとすると、交流学习も担任自身で行くことができる。 各学年の交流、学級担任と密なコミュニケーションをとり、調整をするのはとても大変で、仕事量は膨大なものになってしまうそう。		これは法律で決まっているんです。ですので、市ですぐには無理なんですね。ですから、ここを補うために支援員の数が必要だということに力点を置いているという現状です。		学務課
24	人事について	学年の構成ですよ。人数だけではなく。学年の構成で、一人では無理ということなので。人数だけではなく、管理職の先生にはやはりその構成のことも理解していただかないと、先生たちは出ていかないと。思います。				
25	情緒級について	情緒級というのはIQが普通にあり、高校受験をします。そうすると、先生が足りないというのもあるんですが、通常級に入れられてしまうんですね。 しかし、学び方に配慮が必要な子たちなので。無理に普通級に入れてしまうと、それは不登校を生み出してしまいます。	—	そのことも指導計画に入ってきます。手が空いたから次行ってとか、それじゃ全く意味がありません。何曜日の何コマ目に何人行くから、ここはこの人をついていうのを、最初の年間の作業時間を組むときに、そこまで大ざっぱに考えるんですね。実態を見て、数カ月たってまた細かく見直すとか、そんなことが必要になってきますので、今おっしゃられたようなことがないようにしていかなければならないですね。	—	指導課
26	高校受験について	交流学习級に行っていないと、中学校は内申点はつかない、だから、交流学习級に入っていないと、高校受験はできませんと言われました。	—	それはありません。県立高校を受けられます。	—	指導課
27	教育委員会のビジョンについて	印西市教育委員会のビジョンは、例えば全く今までと違う学校をつくるみたいな、全然これまでと違うペースの個々にあった子供たちの教育っていうのを提供していこうとしているのか、それとも今ある箱の中でいろいろ先生方を底上げして変えていこうという考えなのかっていうと、どちらでしょうか。		今、基本計画をつくっているところででき上がってきましたけれども、その枠の中でということではありません。多様化して、それぞれ個性がありますし、特性もあるので、その子に応じた一番いい学び場はどこなんだろうとか、その選択肢をふやすということは方針としてはあります。	—	教育総務課
28	教育委員会のビジョンについて	学区を取っ払ってしまうとか、シュタイナー教育とか。不登校特例校だと、9時半から始まってとかっていうのとかもあって。そういう感じの全く新しいスタイルっていうのを模索されているんですか。		報道は確認しています。でも今すぐそこをチェックできるかといったら、それはいろいろな面で難しいです。ただ、特認校を始めて今年で2年目になります。来年度3年間やってみて、しっかり検証しようということになっていますので船穂小と本壘中の状況を見ながら、では次にどうしていくかということを考えていきたいと思っています。	—	学務課
29	教育委員会のビジョンについて	小規模特認校のイメージって、支援級に入れたくない、不登校の子が行くっていうイメージになっています。	—		—	学務課
30	教育委員会のビジョンについて	就学前相談の時も感じましたが、担当の方はすごく一生懸命に、うちの子のためにっていう視点の下で考えてくれたのですが、それが学校に降りてこない。 もう一度子どもの特性を伝えていかなきゃいけない、それを毎年毎年やっていく。 それは私たち保護者の務めでもあるのですが、学校側と教育委員会のつながりというか、ビジョンが一致してないところもあると思うので、頑張っていたきたいと思うんです。			—	指導課

NO.	テーマ	参加者の発言	市長の発言	教育長の発言	補足など	関係課
31	受給者証の申請について	放課後デイに通うための受給者証を申請するために障がい福祉課に電話したところ、「事業所はお決まりですか。ご自分で事業所を探して見学してから来てくれたら早いです」と。仰ることは理解できるのですが、ハードルが高い案内だと感じました。	担当課に確認します。	—	この度は放課後等デイサービスのご利用にあたり大変ご不便をおかけしました。障害福祉サービスでは、ご本人にあった事業所やサービスをご案内し計画を立てる相談員がおりますので、ご相談いただければと思います。	障がい福祉課
32	市外へ通学する子への支援について	印西市民だけど、支援学校に行っちゃっている子たちのこともお願いします。学費とかも、県になることで住民税払っているのに、給食費は払わなきゃいけないっていう支援学校の友達もいっぱいいるので。	給食費についての話は聞いています。特別支援学校についても県と話しています。今まであまりそういう会話はなかったんだと思うので。	—	令和6年9月より、印西市立小中学校で学校給食の提供を受ける児童生徒の学校給食費の無償化を開始しました。しかしながら、千葉県立特別支援学校へ通う児童生徒の皆さまへの学校給食費相当額の補助等については、現在のところ実施していない状況です。千葉県では千葉県立特別支援学校へ通う児童生徒の保護者に対して、経済的負担を軽減し、教育の普及奨励を図るため、負担能力に応じて、就学のために必要な経費を支給する千葉県特別支援教育就学奨励事業があります。こちらの事業は、学校給食費も就学奨励費の対象として保護者に支給されます。詳細については、特別支援学校にお問い合わせいただけますと幸いです。また、小学校給食費の無償化については、今後、国において制度設計を進めていく動きがありまして、市では、この動向を注視していきたいと考えていますので、ご理解いただけますようお願いいたします。	障がい福祉課 学校給食課
33	入学説明会について	保護者の方に対してのアピールは入学説明会が一番効くと思います。皆さんの認識や特別支援学級、人権、先生たちの意識も変わるのかなと思うので、入学説明会をいい場所としてぜひ使っていたらと思います。	—	—	—	教育総務課

NO.	テーマ	参加者の発言	市長の発言	教育長の発言	補足など	関係課
-----	-----	--------	-------	--------	------	-----

NO.	テーマ	参加者の発言	市長の発言	教育長の発言	補足など	関係課
-----	-----	--------	-------	--------	------	-----

NO.	テーマ	参加者の発言	市長の発言	教育長の発言	補足など	関係課
-----	-----	--------	-------	--------	------	-----

NO.	テーマ	参加者の発言	市長の発言	教育長の発言	補足など	関係課
-----	-----	--------	-------	--------	------	-----

NO.	テーマ	参加者の発言	市長の発言	教育長の発言	補足など	関係課
-----	-----	--------	-------	--------	------	-----

NO.	テーマ	参加者の発言	市長の発言	教育長の発言	補足など	関係課
-----	-----	--------	-------	--------	------	-----